

第6号

地域・家庭・学校をつなげる新聞!

熊谷ひみつ新聞

Kumagaya Secret Newspaper

社団法人 熊谷青年会議所 15,000部発行
 熊谷市宮町2-39 熊谷市立商工会館内
 電話 048-524-0440
 FAX 048-524-0519
 http://www.kumagaya-jc.or.jp/

JCI

後援 熊谷市 熊谷市教育委員会 熊谷商工会議所
 印刷 株式会社ピーアイピー 熊谷市筑波1-157-2 電話 048-524-1463

もくじ

そうだ! 聖天様へ行こう.....	1ページ
映画館のひみつ.....	2ページ
おいしい秋み~つけた!.....	3ページ
ラグビータウン熊谷のひみつ.....	4ページ

テーマ

熊谷の秋をエンジョイ!



妻沼聖天山本殿(愛称: 聖天様)

住所: 熊谷市妻沼1627



「誰かがやるからいいや」という考えではなく、「どんなことでも自分から進んでやろう」というみなさんの思いが結果に結びついたのでですね。

「誰かがやるからいいや」という考えではなく、「どんなことでも自分から進んでやろう」というみなさんの思いが結果に結びついたのでですね。

聖天様は、たくさんの人達の思いが詰まった大切な宝物です。参拝に出かけた時はゴミをポイ捨てることなく、トイレもきれいに使いましょう。

聖天様が国宝になった今、さくらの観光客が訪れています。たくさんの人に聖天様の素晴らしさ、その歴史を伝えようと、現地ではガイドさんがわかりやすく彫刻の意味等を教えてくれます。そして、そのガイドさんはみなさんがボランティアで行っています。その献身的な姿は、聖天様が地域の人達にとってなくてはならない存在である証拠です。

そうだ! 聖天様へ行こう!

みなさんは〇〇の秋といったら何を思い浮かべますか? 食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋等、秋は楽しみが多い季節です。そんな秋になぞらえて熊谷の「ひみつ」を伝えていきます。

まずは行楽の秋。家族で遠出をする前に、みなさんの住むまちを再確認する旅にでてみましょう! 身近なものも興味や関心を持って目を向けると新たな発見に出会うことができます。

それでは、我々が熊谷を代表する書沼の聖天様へレッツゴー!!

国宝聖天様のひみつ

聖天様はなぜ国宝になったの

聖天様が国宝になった今、さくらの観光客が訪れています。

聖天様から学ぶ! 夢の叶え方

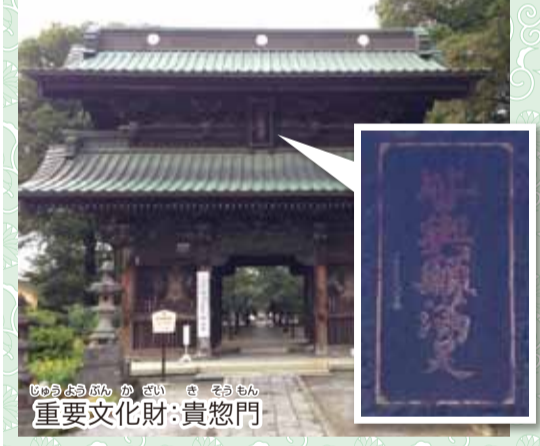
妻沼地域に聖天様を祀られたのは、齊藤別当実盛公です。今の国宝本殿完成は1779年。その際、完成までには約50年の年月がかかりました。長い年月をかけやっと完成したのが聖天様です。

なぜそんなにも時間がかかったの?と思うかもしれませんが、決して手を抜いていたわけではありません。作業をする人が少ないのもありません。一生懸命に作業をしていても建設途中で、利根川の水が溢れて田畑や家が流されてしまったこともあったからです。しかし、どんなに時間がかかっても、どんな困難があっても、あきらめず、途中で投げ出すことなく、完成を夢見た地域の人達の惜しみない行動の結晶が聖天様なのです!

みなさんの夢はなんでしょう? どんなことでもあきらめず、実現するのだと想い続け行動していく、それこそが夢を叶える方法なのかもしれません。

さあ! 今日からでも遅くはありません。みんなで夢に向かって出発しましょう!

(記者: 村松良虎・木村将義・棚澤浩二)



重要文化財: 貴惣門

皆願満足???

聖天様の一番最初の門「貴惣門」は国が指定する重要文化財です。門の一番上には「皆願満足」と書いてあります。この言葉の意味は「大きな願いも小さな願いも宗派は問わず、皆たくさん持ってきてください。満足を与えてあげますよ」という意味です。

神様も人も一緒です。頼みごとをしたら後でしっかりお礼を言いましょう。

聖天様で探そう!

サルとワシ

- ワシが聖天様、サルが人を表しています。これは食べられているのではなく調子に乗って激流に落ちそうになっている人を聖天様が助けてくれているのだそうです。



提供: 森川寿司店

江戸時代から続く味

みなさんは、聖天様の近くで売っているお寿司を食べたことはありませんか? 大きないなり寿司3個とりの巻がセットになって販売されています。

なぜ、聖天様の近くでお寿司を販売するようになったのでしょうか。江戸期、宝暦年間には聖天様周辺にはお豆腐屋さんがたくさんあつたそうです。そこで作られていた油揚げを使っているいなり寿司を作ったことが始まりではないかといわれています。

現在、聖天様周辺には、名物のいなり寿司を売っているお店は森川寿司店、小林寿司店、聖天寿しの3店舗あります。

聖天様に行ったら食べ比べてみるのもおもしろいかも?

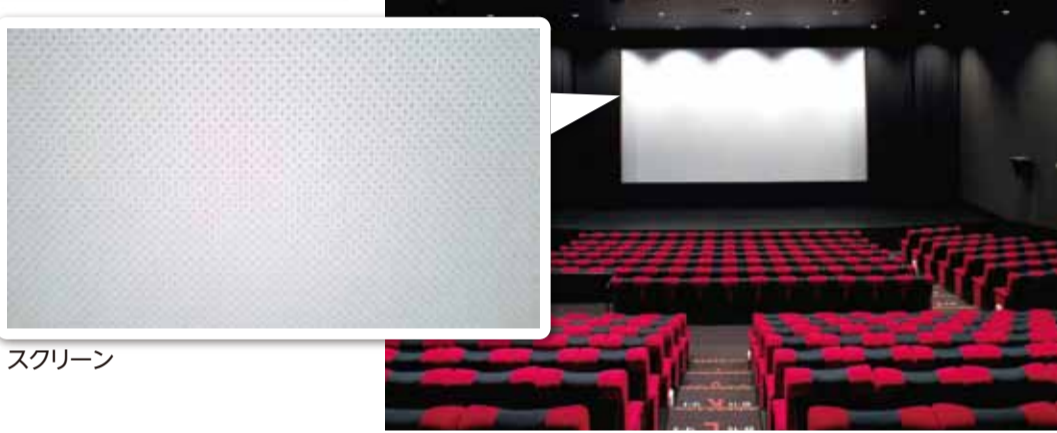
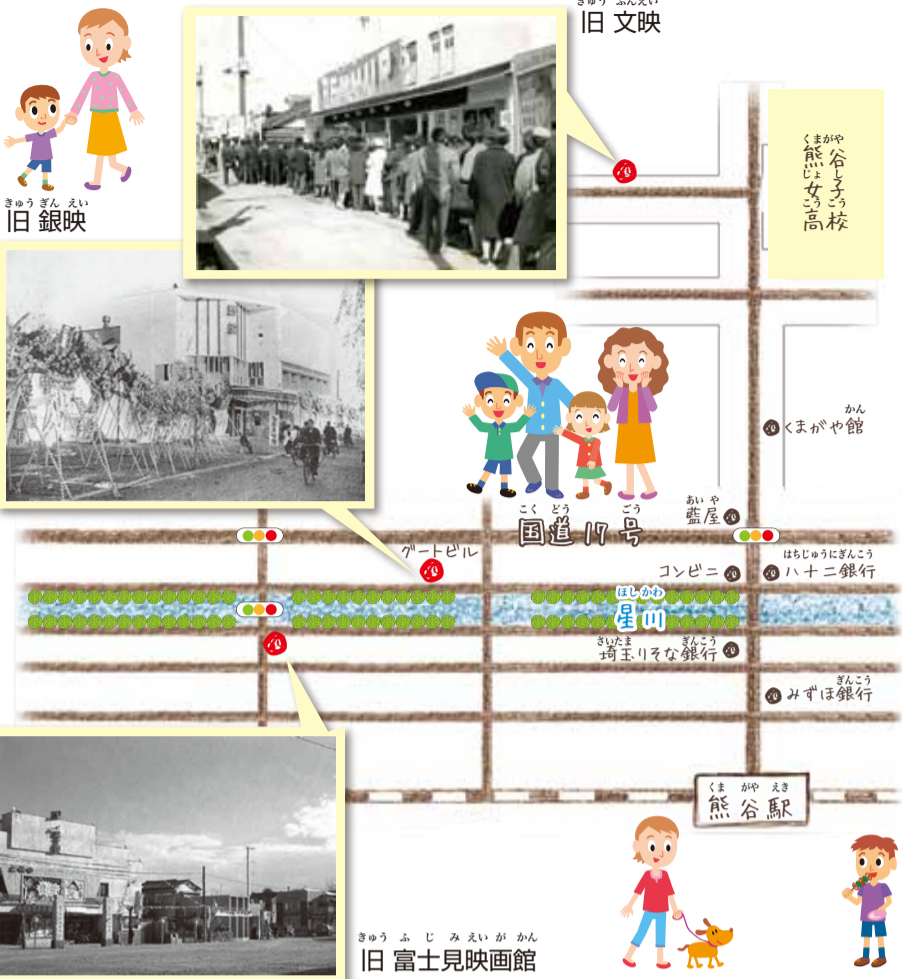
映画館のひみつ

芸術の秋。ここでは、知っているようで知らない「映画館のひみつ」を紹介いたします。今も昔も映画を観るために、たくさんの方が熊谷にやってきました。大人も子どもも一緒に楽しめるのが映画館。おうちの人と一緒に歩いてみようとみんなにとつての大切な何かが見つけられるかもしれないよ。

熊谷の映画館の歴史

熊谷に映画館ができたのは明治のはじめ頃、戦後間もなくの昭和20年代半ば頃。今の熊谷女子高校の西側にできた「文映」、お祭り広場角にあり、熊谷市民がお金や木材、瓦などを出し合っていた「富士見劇場」や、星川通り沿いにあった「銀映」など、市内には6つの映画館がありました。まだまだ焼け跡の

街の中、テレビもなく、映画は数少ない娯楽の一つでした。情報が少ない時代でしたから、映画を通して「自由」なものの見方、「文化」が「自由」な街中に溢れました。そして、現在は2つの映画館があり、スクリーンの数はなんと16個！全国的にも市内にこれだけの数のスクリーンがあるのは珍しく、昔から熊谷は映画を観るには恵まれた環境にあるのです。



スクリーンのひみつ

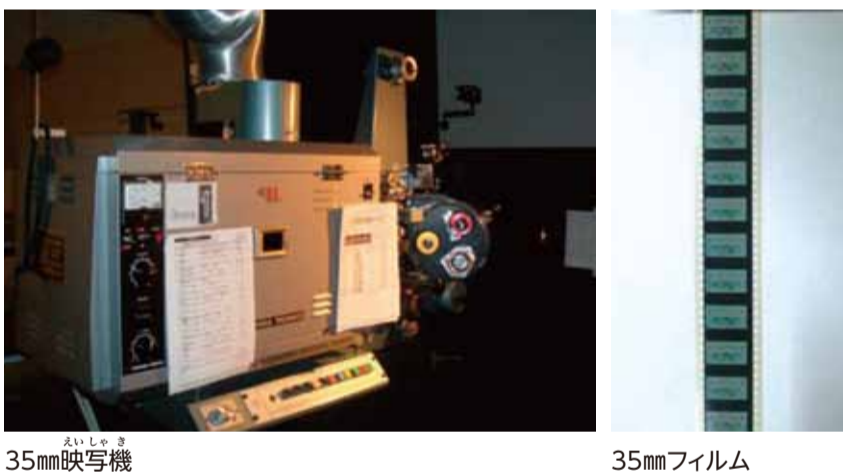
現在の映画館は、1つの映画館で8つ以上のスクリーンを持つシネマコンプレックスというものに進化しています。熊谷市内には8つのスクリーンを持つ映画館が2つあります。8つのスクリーンだから毎日8つの映画を流しているのではなく、多い時は20作品以上も上映していることもあります。

そんな映画を映すスクリーンには実はひみつが隠されています。遠くから見るとわかりませんが、実はスクリーンには穴が空いているのです！スクリーンの裏側には音を出す機械スピーカーが設置してあって、スピーカーから出る音の通り道になるように穴が空いているのです。

映写機のひみつ

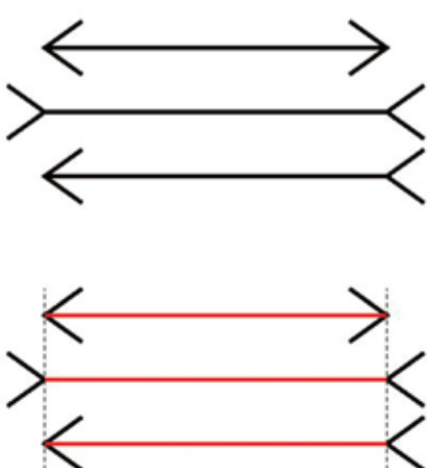
映画はどのように流しているのか、みなさんは知っていますか？少し前までは影絵と似たような方法：つまり映画のフィルムに映写機という大きな光を出す機械で、光を通してスクリーンに投射していました。

では、どのように映像にしているかというと、映画は1枚1枚少しずつ動いていく絵を描いたり、撮ったりして、それをフィルムに焼き付けます。そして、それを高速に順番に流すことで、動いているように見えるのです。1秒間に必要な枚数はなんと24枚。2時間の映画を流すために必要な映画のフィルムの全長は約2kmにもなります！



デジタル映写機

デジタル3Dにはいろいろな方式がありますが、その中の一つをご紹介します。まず、どうして、画面が立体的に見えるかというと、実は目の錯覚なのです。



3-Dメガネ

右の図形で上だけみると真ん中の線の長さは違って見えますが、同じ線の長さなのです。このように人間の目は間違ってみえることがあります。

では、3Dとはどのように目の錯覚をおこしているかというと、デジタル映写機で右目用と左目用の映像を同時に流します。そして、特殊なメガネをつけて右目と左目を交互に高速でまばたきをしている状況をつくり出します。その回数は1秒間に70回！それだけの早さで交互に見ること、立体的にみえるようになるのです。

熊谷出身の映画人のひみつ
熊谷出身の映画プロデューサーである原正人さんに映画館の思い出と映画製作に対する想いについてお話を聞きました！

戦後間もなく、焼けつくされて食べ物もなかったあの時代、みんな心も身体も飢えていました。昭和23年、上京した僕は初めてアメリカ映画を観ました。シヨックでした。我々はこんな国の人々と戦っていたんだ！と。イタリア映画やフランス映画もたくさん上映されはじめ、日本映画もたくさん作られ、映画は飢えた人々の心にしみとおりました。生きる力と喜びを与えてくれたのです。大学1年生の秋、病を得た僕は熊谷に帰ってきました。街は復興しはじめ、映画館も次々と建てられた頃、出逢ったのが熊谷映画文化会の設立という文化運動でした。良い映画をみんなたくさん観ようという多くの人々の声にこたえてスタートした会はたくさんの方を集めて活動を始めました。それから間もなく映画業界に入った後は長い年月を映画ひと筋で生き、たくさん映画を製作してきました。しかし、映画は作っただけでは完成しません。観客のみなさんに観てもらうことではじめてその映画は生命を吹き込まれるのだと思っています。ぜひ、映画館のスクリーンで映画に出逢ってください。きつとあなたにとつて大切な何かを見つけてくれることができると思っていますから…。



【写真】原正人さん
担当映画作品(一部)
『銀河鉄道の夜』
『乱』
『武士の家計簿』
『明日への遺言』
『草原の椅子』

【記者】長谷川隆一・宮本幸典

おいしい秋みつけた!

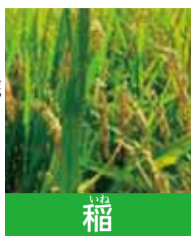
秋は昔から「収穫の秋」と言われ、みんなが山や畑でとれた秋の豊かな実りに感謝をし、「食欲の秋」を楽しんできました。ここでは、そんな熊谷の収穫と食欲の秋のひみつにふれてみましょう。

収穫の秋 カントリーエレベーターのひみつ

みなさんはカントリーエレベーターという建物を知っていますか? 熊谷市には中条地区にJAくまがや第1カントリーエレベーター、久保島地区にJAくまがや第2カントリーエレベーターの2つのカントリーエレベーターがあります。みなさんはおうちのご飯や学校の給食で、1年中おいしいお米を食べられますよね。不思議に思っ

た事はありますか? 実はそのおいしいお米の秘密がこのカントリーエレベーターには隠されているのです。

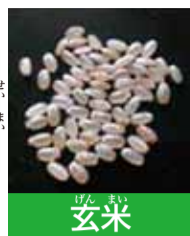
白いお米ができるまで



稲



脱穀



籾摺り



白米

一年中おいしいお米が食べられる

カントリーエレベーターではコンピューターを使った厳しい管理のもとで、水分量約15%・温度約15度というお米が一番おいしい状態で保管しています。そして必要な時に必要な量だけお米を出荷します。



出荷をするときにはじめて籾から籾殻と呼ばれるかたい殻を外します。(これを「籾摺り」と言います) これも食べる直前までおいしさを落とさないひみつですね。



JAくまがや第1カントリーエレベーター

お米が食卓に上がるまで



みなさんが普段食べている給食も、このカントリーエレベーターで籾摺りしたおいしいお米が使われているのです。ちなみに熊谷市内の小中学校で使われている給食のお米は、すべて熊谷市内で取れた「キヌヒカリ」という品種のお米がつかわれていますよ。

取材協力 JAくまがや (記者・染谷秀樹)

食欲の秋 熊谷のうどんのひみつ

みなさん、元気ですか? 暑い夏も終わりすこしやすすい季節の秋になりました。秋は「天高く馬肥ゆる秋」という言葉があるように、人だけでなく動物もたくさん食べて体を大きくするといわれる季節です。ここではそんな「食欲の秋」のひみつを取り上げてみましょう。

みなさんの住んでいるこの熊谷市では小麦の生産が大変さかんです。生産量は本州で一番多い6660t(H24年調べ)あり、なんと!これは大型トラック444台分もの量になります。そんな小麦の里熊谷産の小麦を使った食べ物を作って食欲の秋を満喫してみましよう!

小麦を使った食べ物はいろあありますが今回は熊谷市民に愛されている「うどん」を作ってみましよう!

材料 (4人前)
小麦 500グラム
(今回は熊谷産あやひかりを使用)

水 230グラム
塩 18グラム

① 塩水を作る
水に塩を加えてよくかき混ぜる。 ※30分前に作っておくと、よくなじみます。

② 小麦粉を塩水になじませる
粉をボールに入れ、やさしく粉の玉を崩してから、粉をボールの中

にたいらにし①で作った塩水を均一にかけ素早くこねる。 ※均一な水回しが大切です。

③ 玉を作る
空気を抜くように数回こね粉を丸める。

④ 丸めた粉を大きなビニール袋に入れて踏む。
300回以上、裏返して150回

足で均一に踏み、ビニール袋から出して空気を抜くように数回こね丸める。

⑤ ねかせる
ビニール袋などで空気が入らないように玉を包み温かい場所(約27℃)で30分寒い場所(冷蔵庫の野菜室

など)で10分ねかす。

⑥ やさしくのす
テーブルなど、平らな台の上にビニールをひき打ち粉をふり、玉を半径30cm位になるまで手のひらでのぼす。



次にのし棒やすりこぎなどを使い、均一の厚さになるようやさしくのす。

⑦ 切る
麺がつかないように、打ち粉を十分にふってから切りやすい幅にたたみ、お好みの幅に切る。



⑧ ゆでる
沸騰したお湯に麺をほぐしながら入れ、常に麺を動かしながら3分45秒から4分45秒程度ゆでる。

ゆで上がったらすぐに冷水にさらしよく水を切つてできあがり。あとはキノコなど秋の食材のつゆで食べても良いですし、秋ナスやサツマイモなど秋野菜の天ぷらと食べてもおいしいです。

取材協力 熊谷市農業振興課 (記者・中島寛・石川雄太)

太一のつぶやき



皆さん、こんにちは! 太一のつぶやき担当の岡部太一です。皆さんの夢は何ですか? おじさんは幼稚園の卒業文集に将来の夢「トラックの運転手」と書きました。理由は「沢山の人を乗せて、どこまでも遠くに行けるから」だったようです。なぜバスの運転手ではなかったのかは覚えていません。皆さんも色々な夢があると思います。なぜ、その夢なのですか? その夢を叶えるには何をしたら良いか知っていますか? マキャベリという人はこう言っています。「運の半分は天から決められたものであり、後の半分は私たちが自身にゆだねられている。」

つまりは夢を叶えるには、幸運を逃がさないための努力、運に乗って成功できるだけの実力、運が来るまでの苦難を乗り越える忍耐力が必要なのだと思います。ぜひ、皆さんには夢を持った理由や夢を叶えるには何をしたらよいのかを大切にしていたくださいと思います。たとえば、沢山の人が希望を与えたいから、プロスポーツ選手になりたい。「熊谷をもっと住みやすくしたいから、政治家になりたい。」「沢山の人が笑顔にしたいから、ケーキ屋さんになりたい。」どれも素敵な夢ですね! きつと周りに応援してくれる人が沢山いるはずですよ。

皆さんが夢に向かって一歩でも前へ進めるよう願っています。 社団法人熊谷青年会議所 理事長 岡部太一

ラグビータウン熊谷

熊谷のひみつ

One for All
All for One



スポーツの秋。みなさんが好きなスポーツはなんですか？熊谷市のスポーツといえば「ラグビー」が有名です。私達の住む熊谷市は「ラグビータウン熊谷」とも呼ばれ昔からラグビーが盛んです。なぜ、ラグビーなのでしょう？そこには、ついつい力を入れちゃう理由があるのです。ここでは、みなさんに「ラグビータウン熊谷」の自慢できるひみつを伝えます。

始まりはいつから？

昭和二十三年に熊谷商工（現在の熊谷商業と熊谷工業にあたる学校）がラグビー部を作り、三年後に県大会で初優勝しました。当時、森喜雄さんというカリスマ監督がチームを強くし、全国大会常連校となりました。昭和四十二年の埼玉国体の時は荒川大橋の近くの河川敷がラグビー会場として使われました。昔から熊谷はラグビーが盛んだったのです。

ラグビータウン熊谷

平成二年度に全国高校ラグビー大会で熊谷工業が初優勝し熊谷駅から市役所まで優勝パレードを行いました。平成三年には、全国でも有数な現在のラグビー場が完成しました。



写真提供：熊谷市

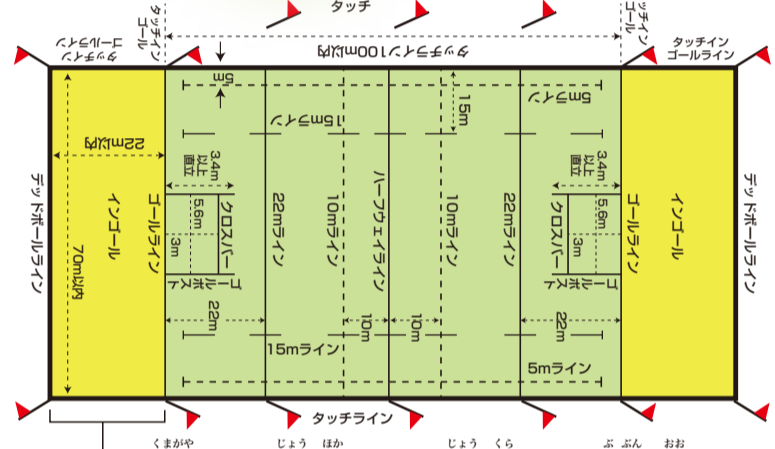


写真提供：熊谷市

埼玉県のラグビーは、熊谷を中心に発展してきたこともあり、ぜひ県営ラグビー場を熊谷にという思いから、埼玉県ラグビー協会の熱心な働きかけや熊谷市民の熱意が、当時の県知事に伝わり建設することができました。みなさんは「ワンフオアオール」という言葉を知っていますか？ラグビーの世界ではよく使われる言葉ですが、日本語に訳すと、「ひとり、みんなのために...」みんな、ひとりのために...。みなさんも仲間を思いやる気持ち、助け合う気持ちをわすれないでね！美しいラグビー精神と、ラグビーを活かしたまちづくりを進めるためにラグビータウン熊谷として発信しているのです。

熊谷ラグビー場

秩父宮ラグビー場や全国高校大会を行う近鉄花園ラグビー場を知っていますか？秩父宮は誰もが認めるラグビーの聖地、花園は高校生ラグビーのあこがれの場所です。実は熊谷ラグビー場は、この2つよりグラウンドが広いのです。フルサイズのグラウンドが三面あるのは熊谷ラグビー場だけです。さらにゴールポストの高さですが、アルミのポールが三本つなげられた二十メートルの高さは日本一です。現在修復中のため短くなっていますが、近々立派なゴールポストが復活する予定です。



熊谷ラグビー場は他のラグビー場に比べてこの部分が大きいよ

駅前モニュメント

みなさんは熊谷駅前にあるラグビーのモニュメントを見たことがありませんか？ラグビータウン熊谷のシンボルとして、埼玉県ラグビー協会の寄付により作られ、今では待ち合わせ場所の目印にもなっています。モニュメントのデザインは、関係者がニュージールランドで目にしたウイスキーのボトルがもとになっています。ニュージールランドはラ

グビーが国技で、代表チームのオーブルフラックスは世界最強です。また、熊谷市の姉妹都市インバーカーギル市もニュージールランドにあります。モニュメントの上に立つラグーマンを良く見ると、九番の背番号を付けていることがわかります。これはスクラムハーフというポジションの人が付ける番号です。熊谷高校出身で日本代表監督も務めた宿沢広朗さんや、熊谷工業出身の元日本代表選手、堀越正己さん（現・立正大学ラグビー部監督）などが付けていた番号で、熊谷からは二人以外にも優秀なスクラムハーフが何人も出ています。



また、モニュメントの裏側を見ると写真のような銘板が取り付けられています。何が書いてあるのか、本物を見て確認してみてください。



みなさん、ラグビーのイメージは、少し変わりましたか？ラグビーというと、ぶつかり合っ

て痛そうなおスポーツというイメージを持つ人が多いと思いますが、世界中でプレイされている人気のあるスポーツで、『ワンフオアオール』の気持ちをもって、チームワークで戦うスポーツです。ここ熊谷市でも長い歴史と活躍したたくさんの方の選手や監督がいます。そして熊谷市でもたくさん試合が開催されていて、生の試合も見ることが出来ますよ。ぜひ熊谷ラグビー場へ行って、本物のラグビーの試合を見て下さい。きっとその迫力に驚くと思います。

ラグビーワールドカップを熊谷で！！

四年に一度のラグビーの祭典であるラグビーワールドカップが、今年から六年後の二〇一九年に日本で開催されます。その試合会場は二〇二五年三月までに決定されますが、熊谷ラグビー場が試合会場になれるように活動をしています。みなさんも応援してくださいね。（記者・奥野英樹）

調べてほしい ひみつ大募集

熊谷で調べてほしい「ひみつ」を募集しています。ハガキまたはメールにて調べてほしい内容を書いてお送りください。皆様からの新聞に対するご意見もお聞かせ下さい

応募先

〒360-0041 熊谷市宮町2-39 熊谷商工会館内
社団法人 熊谷青年会議所
熊谷ひみつ新聞「ひみつ大募集」係
メール: info@kumagaya-jc.or.jp

編集後記

みなさん、こんにちは。編集長のおじさんです。今年3回発行した新聞の中で、熊谷のいろいろな「ひみつ」と共に「夢」について紹介してきました。みなさんは、どんな夢を持っていますか？みなさんの夢をおじさん達や地域の達人に教えてほしい！と思い、「第3回熊谷子どもみらい塾」夢あふれる川、星川の巻」を企画しました。これは11月4日（月）祝日にみなさんの夢を光の玉に込めて星川に放流するという、とっても夢のある事業です。詳しくはチラシやポスターを配りますので、そちらを見てくださいね。みなさんが来てくれるのを楽しみに待っています！

今年の新聞はこの第6号が最後となりますが、また来年、新しい編集長と編集委員の人たちが面白い新聞を作ってくれると思うので、期待していただきたいと思います。一年間ありがとうございました。

編集長 大川正行

1日限定！「星川水族館」オープン

熊谷初の水族館が1日限定オープンです。ムサシトミヨはもちろん、荒川や利根川、星川に住んでいる魚を展示します。みんなで秋の星川散歩をしながら、魚を見学しに行ってみよう！

日時：10月27日（日）13:00～17:00
場所：星川 費用：無料
主催：熊谷市ムサシトミヨをまもる会
協力：埼玉県環境科学国際センター

開催場所